

試験科目 論文(問題)
(経営分野)

受験番号					
フリガナ					
氏名					

3分野(経営・会計・経済)のうち2つの分野を選び、それから1問ずつを選択して合計2問を解答下さい。経営・会計・経済で問題用紙は別になっています。

**解答用紙の最初に選択した問題の分野・番号・問題を書くこと(問題は最初の10文字程度で可)

**分野ごとに解答用紙は別にすること

【 経営分野 】

問題1 次の文章を読み、以下の(1)と(2)に答えなさい。

一般に、企業が成長を続け、従業員の数が増えていくにしたがって、(a)大規模化した組織を効率的にマネジメントしていくための様々な制度や仕組みが整備されていくことになる。こうした組織は、「官僚制組織」(M. ウェーバー)や「機械的組織」(T. パーンズ & G.M. ストーカー)と呼ばれることがある。

一方、上記のような制度や仕組みの整備が行きすぎてしまうと、かえって(b)デメリットも生じることが知られている。こうしたデメリットは、「官僚制の逆機能」(R. K. マートン)と呼ばれることがある。

- (1) 下線部(a)に関連し、大規模化した組織を効率的にマネジメントしていくための制度や仕組みにはどのようなものがあるのか、3~5行程度で説明せよ。
- (2) 下線部(b)に関連し、上記のような、大規模化した組織を効率的にマネジメントしていくための制度や仕組みの整備が行きすぎてしまうと、どのようなデメリットが生じ得るのか、3~5行程度で説明せよ。

問題2 次の文章を読み、以下の(1)から(3)に答えなさい。

競争戦略論の分野では、1980年代以降、企業に競争優位をもたらす源泉として、主として企業の外部要因に着目する(a)「ポジショニング・アプローチ」と、主として企業の内部要因に着目する(b)「資源・能力アプローチ」の、大きく分けて2つの流れが存在してきた。

ただし、企業が競争優位を確立し維持していくためには、(c)外部要因も内部要因も両方考慮して戦略を立て実践していくことが求められるのは当然であり、このような観点から、近年では「ポジショニング・アプローチ」と「資源・能力アプローチ」は統合されている。

- (1) 下線部(a)に関連し、「ポジショニング・アプローチ」の代表的分析フレームワークとして、M. ポーターによる「5つの競争要因分析」(Five Forces Model)がある。この「5つの競争要因分析」について、5つの競争要因(Five Forces)が何であるのかを明記した上で、3行程度で簡潔に説明せよ。
- (2) 下線部(b)に関連し、「資源・能力アプローチ」の代表的分析フレームワークとして、J. B. バーニーによる「VRIOフレームワーク」(VRIO framework)がある。この「VRIOフレームワーク」について、V・R・I・Oの4つの文字が何を意味しているのかを明記した上で、3行程度で簡潔に説明せよ。
- (3) 下線部(c)に関連し、K. B. アンドリューズらは、「ポジショニング・アプローチ」や「資源・能力アプローチ」が登場する以前に(それどころか経営戦略論という分野が確立する以前に)、「戦略策定を行う際には外部要因も内部要因も両方考慮しなければならない」ということを強調し、「SWOT分析」という分析フレームワークを提唱した。この「SWOT分析」ではどのように戦略を策定するのかについて、S・W・O・Tの4つの文字が何を意味しているのかを明記した上で、3~4行程度で簡潔に説明せよ。

2022年度 法政大学 転籍・転部・転科・編入学・継続学士入学試験
3年次 経営学部 経営・経営戦略・市場経営学科

試験科目 論文（問題）
（会計分野）

受験番号					
フリガナ					
氏名					

3分野（経営・会計・経済）のうち2つの分野を選び、それから1問ずつを選択して合計2問を解答しなさい。経営・会計・経済で問題用紙は別になっています。

** 解答用紙の最初に選択した問題の分野・番号・問題を書くこと（問題は最初の10文字程度で可）

** 分野ごとに解答用紙は別にすること

【 会計分野 】

問題1 損益計算書には、売上総利益、営業利益、経常利益、税引前当期純利益、当期純利益といったさまざまな利益が表示されるが、それらの利益のうち、①売上総利益、②営業利益、③経常利益の性格について述べなさい。また企業の営業部長の立場であったら自社の損益計算書のどの利益を重視するか、株主であったらどのような利益を重視するか、その理由を含め説明しなさい。

問題2 原価計算の目的について説明しなさい。次に総合原価計算と個別原価計算の違いについても述べなさい。

試験科目 論文（問題）
（経済分野）

受験番号					
フリガナ					
氏名					

3分野（経営・会計・経済）のうち2つの分野を選び、それから1問ずつを選択して合計2問を解答しなさい。経営・会計・経済で問題用紙は別になっています。

** 解答用紙の最初に選択した問題の分野・番号・問題を書くこと（問題は最初の10文字程度で可）

** 分野ごとに解答用紙は別にすること

【 経済分野 】

問題1. 市場メカニズムに基づく経済活動が、社会全体にとって最適な結果を生まない場合を「市場の失敗」と呼び、そうした場合には、政府による公的介入が、社会厚生を改善させる可能性が知られている。市場の失敗が起こる典型的な例である（1）二酸化炭素排出による地球温暖化、（2）洪水防止のための堤防整備、の2つのトピックについて、各々、どういった市場の失敗がなぜ発生し、そうした市場の失敗に対して政府が採るべき政策とは何かについて、以下の用語すべてを1回以上用いて、（1）と（2）各7～8行以内（合計で15行以内）で論じなさい。

- (1) 外部不経済、排出権取引、ピグー税 (2) 公共財、非排除性、フリーライダー、公共工事

問題2. 為替レートは、2国間の様々な要因で決定される。為替レートの決定要因と経済活動・物価の関係に関する（1）購買力平價説、（2）金利平價説、という2つの学説について、それぞれの様に為替レートが決定されると考えられているのか、以下の用語すべてを1回以上用いて、（1）と（2）各7～8行以内（合計で15行以内）で論じなさい。

- (1) 物価水準、一物一価の法則 (2) 金利差、裁定取引、為替変動リスク